

## 水道料金体系の改定について

内部留保資金残高 15億円程度を確保  
 建設改良費 年間14.3億円  
 企業費 3億円借入  
 平均供給単価 180円（平均改定率12.5%）現行160円  
 増収目標額 3億円（税抜）程度

○大口径（100 mm以上）は、他市と比較しても安価な状況のため、基本料金を大幅に見直すことから、従量料金を踏まえた改定率を平均改定率（12.5%）程度となるように考慮することで、使用水量が多いところの負担を軽減する。  
 ○全ての基本料金及び従量料金を給水原価以上に設定すると、一般家庭の水道料金が高騰することから、小口径（13～25 mm）の基本料金は、平均改定率より低くし、従量料金は、給水原価を下回っている単価の見直しを行うが、見直し後も給水原価を下回っている単価が生じる。

	設定条件等	特徴	料金表
案 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本料金 12.5% 大口径（100 mm以上）基本料金＋従量料金の全体で12.5%に調整</li> <li>従量料金 12.5%</li> </ul>	一律12.5%	【資料2】 案1
案 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本料金 小口径（13～25 mm）10.5% 中口径（30～75 mm）12.5% 大口径（100 mm以上）基本料金＋従量料金の全体で12.5%に調整</li> <li>従量料金 給水原価 下回っている単価15%、上回っている単価13% 51 m<sup>3</sup>以上12.5%統合</li> </ul>	<p>小口径の基本料金を平均改定率より抑え、給水原価を下回っている従量料金を見直す。</p> <p>また、大口径の基本料金を大幅に見直す、一方で100 m<sup>3</sup>以上の従量料金は、低い率に抑える。</p>	【資料2】 案2
案 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本料金 小口径（13～25 mm）12% 中口径（30～75 mm）13% 大口径（100 mm以上）基本料金＋従量料金の全体で12.5%に調整</li> <li>従量料金 給水原価 下回っている単価14%、上回っている単価12% 51 m<sup>3</sup>以上14%統合</li> </ul>	<p>案2に比べると、基本料金は上がり、基本水量内使用者の負担が多くなる。</p> <p>また、従量料金は下がる、一方で100 m<sup>3</sup>以上の従量料金はあまり下らない。</p>	【資料2】 案3
案 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本料金 小口径（13～25 mm）10% 中口径（30～75 mm）12.5% 大口径（100 mm以上）基本料金＋従量料金の全体で12.5%に調整</li> <li>従量料金 給水原価 下回っている単価を給水原価の167円に近づけ、160円で統合 その他12.5% 51 m<sup>3</sup>以上11.5%統合</li> </ul>	<p>案2に比べると、基本料金は下がり、基本水量内使用者の負担は少なくなる。</p> <p>一方、従量料金は大幅に上がるため、負担の大小差が大きい。</p>	【資料2】 案4